

星屑

1987. Dec.
NO 156



高田さんから電話があり「星屑」への投稿依頼であった。「高森天文台この1年」というタイトルでのこと。一瞬ギクッとした。というのも昨年11月完成してからこの1年何をしたのかな?頭の中で寒いものがよぎったからだ。元来メカキチの私はプランをたててから約3年こつこつ部品を造ったり地金屋廻りをしたり、そしてやっと完成?し待望の観測を始めたものの使用するにつれてだんだん機能に欲が出て改修やら暗室造りやらで1年はあっと言う間に彗星より早く過ぎ去っていった。

とまあこういう具合いで取り立てて皆様に御披露するものは何にもありませんが、いままでやったものを列記しながら1年間のまとめとします。

1 ドームの風雨対策

ドーム形式の最大の悩みは風雨対策でした。スリットやドーム底部など、風雨が強い時は降り込みます。これを防止するため、幾度か手直しをしました。なお厄介なのは雪です。雪はどこからとなく降り込みます。

2 耐震対策

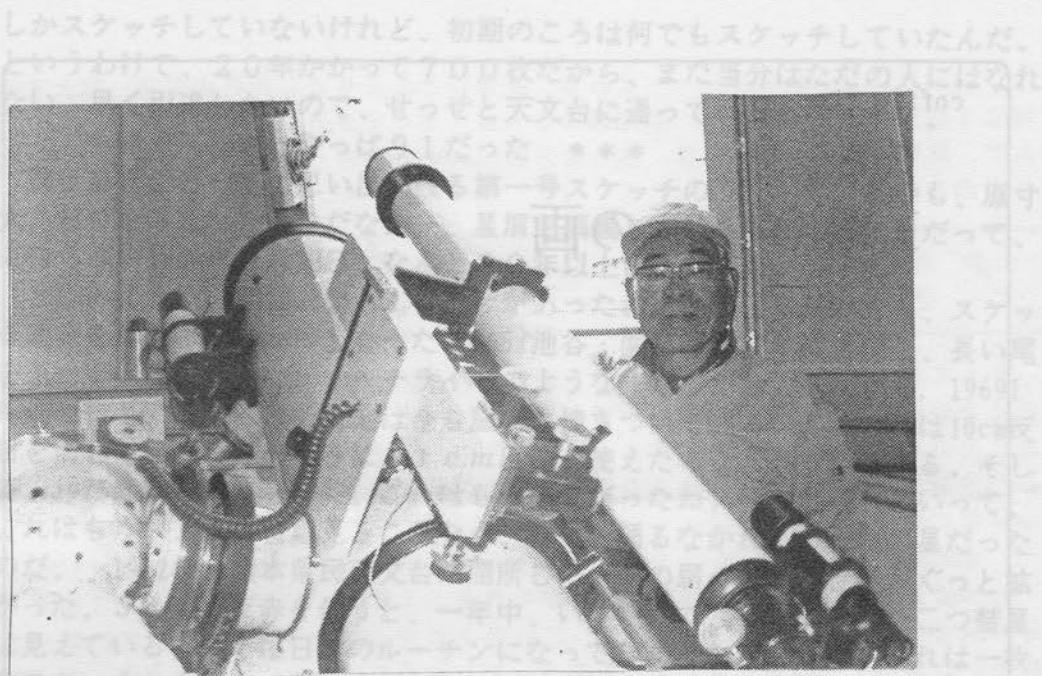
これは改修のしようがありませんが道路から20m程度しか離れておらず70cm×70cmのコンクリート柱では防ぎようがなくひたすら車の少なくなるのを待つのみです。

3 極軸駆動装置について

ステッピングモーターの欠点としてパルス振動があり音が気になります。これはギヤの組合せに問題があると思います。どんなに調整しても効果がありません。

4 赤緯軸微動装置について

赤緯軸微動にもステッピングモーターを使用していますが微動スイッチONのとき瞬間、視野が反対方向に移動します。この原因を究明中です。



高森天文台の星

5 最後にドーム礼讃

私は高森に暮らしてみて初めて「高森風鎮祭」の意味が分かりました。それは当地が年間を通して風の日が非常に多いことです。従って快晴の日もシーイングは良くありません。また厳冬季の寒さは格別でそれに風の強い夜は屋外での観測は困難です。そのてんドームは大部分の風を遮ってくれますので助かります。

それに昼間は銀色に輝いていかにも存在感があり少年の頃思い続けた夢がここにあるのです。

あれから丁度一年。このドームからオリオンの大星雲をあかずながめた夜を思い出しながら終ります。

皆さんどうか遊びに来て下さい。

終り

★ 井無田での遠征観測会の帰りに、観測会に参加した20数名は高森天文台の見学にとおじやましました。あいにく、永井 聰さんは大事なご用事で東京にでかけられていきましたので、この天文台を造るときに協力された艶島さんや宮本先生が説明をされました。写真でもわかる様にこの望遠鏡、ドームは鏡筒意外すべて自作ですが、へたをしたらメーカーを凌ぐようなできとなっていましたり、また随所にアイデアを凝らした機械を造られています。見学された方は、機械の説明を受ける度に驚いたり感心したりされていました。

阿蘇の自然に恵まれた高森、そこに真っ白な家と、ブルーのラインが入った真っ白な天文台。皆さんも、近くを通ることがあるようでしたら、訪ねられるといいと思いますよ。

coffee time

1000葉の画

** 20年の証し **

星の店資料部

こばやしじゅう

M3

*** 1000物語 ***

十進法の世界に住んでいる私たちにとって、1・10・100といった数字は歯切れが良くて、何となく思い入れの出来てしまう数字だ。かの弁慶も1000本の刀集めに凝ったというからね。

ハレー彗星の観測が終わるころから、筆者のスケッチの番号が1,000に近づいてきた。そこで、筆者も目標を1000枚において、1,000枚の彗星スケッチが達成された暁には、熊本県民天文台から足を洗って、ただの人になるんだと宣言した。この秋、たくさんの彗星が出現して、あれよあれよという間に、筆者のスケッチは枚数を重ね、あっさり No. 1000を超えてしまった。それは深い感慨に浸る間もない出来ごとだった。そうだね、彗星の仮符号が χ を超えて簡単にa1, b1, c1となったように・・・、彗星史上に残る年・1987年の1,000葉。

*** としては、〇〇級 ***

さて、宣言どおり筆者がただの人になったかというと、こうしてつまらぬことを書いていることでも分かるねえ。まだ、どっぷり天文台につかっている。

しかし、これは決して公約破りではない。子ゑんの〇〇としては世界最大級（天文ガイド1987年12月号のコラム参照）ではないけれど、筆者はあくまで彗星のスケッチを1,000枚といったのだ。つまり、つまらないことだけど、現在のスケッチには、月も惑星も星雲・星団も含まれているというわけ。ちゃんと逃げ道作っておくなんて役者だね。

でも、本当だよ。彗星のスケッチは正味 700枚程度なんだ。今でこそ、彗星

しかスケッチしていないけれど、初期のころは何でもスケッチしていたんだ。というわけで、20年かかって700枚だから、まだ当分はただの人にはなれない。早く引退したいので、せっせと天文台に通っているわけ・・・。

* * * 初めはやっぱり1だった * * *

図は筆者にとって、思い出に残る第一号スケッチのコピーで、しかも、原寸大。日付をみると、いやだなあー、星屑を編集している高田の誕生日だって、気持ち悪い1966年6月28日、なんと20年以上前の話だよ。

とはいって、この期間、いろんなことがあったねえ。彗星に限っても、スケッチ観測を始めるきっかけとなった 1965f 池谷・関彗星が前年に出現し、長い尾をみせていた。まさに、サーチライトのような光だったね。それから、1969i Bennet彗星、妖しく輝く流線は今も脳裏に焼きついている。このころは10cm反射を用いていた、今のように31cm反赤が使えたらなと思ったりする。そして、1975n West彗星と続く。これはもう絶景だったね。何が素晴らしいって、これはもうウェスト彗星見ることなく、彗星を語るなかれという程の星だったのだ。1982年、熊本県民天文台が開所した。手の届く彗星の世界がぐっと拡がった。31cm反赤を使うと、一年中、いつだってどこかに一つや二つ彗星は見えている。今では日常のルーチンになってしまった彗星観測、それは一枚のスケッチから始まった。

* * * かわいい星の子たち * * *

毎夜、静かな闇の中で舞う小さな星たち、その愛らしさにたまらなくなってきた小さな報告集を作った。だって、出来の良い子・悪い子、目立つ子・目立たない子、それぞれに個性があって精一杯輝いているんだよ。それをね、ただ見過ごしてしまうなんて、勿体なくて、かわいそうで、そっと白い用紙に赤いライトのもとで描きとめてしまうわけ。そして、ほら、こんなに楽しく星の子たちが舞っていたよって、小さな報告集をだした。

この報告集が、当時東京天文台の某先生の目にとまって、某天文誌の彗星のページを請け負うことになった。こうしてある種、一つの責任が生じると、いい加減なことを書くわけにもゆかず、ますますせっせと、彗星につきあわねばならないハメに陥った・・・、これは某先生の陰謀だったのかもしれないなあ。1,000枚のスケッチで引退宣言というカッコいい（どこが）話の前に立ちふさがる唯一の難関なのだから・・・。某先生のお奨めが、筆者の引退防止まで含んでの事だったとすれば、うん・これは大した深謀遠慮、でも・まさかね。

* * * 結局、宣伝 * * *

1,000葉を20年かかって達成したということは、一年に50葉平均か。まあ、それでも一つのことを20年も続けると、なにがしかの物は残るようとしてね、KCAOでは5周年記念誌として、ハレー彗星のスケッチ 120余葉を掲載する観測集を出すんだって。よろしくね。

P.S. 記念すべきNo. 1,000のスケッチは、出来の悪い代表みたいな1987y Levy彗星だった。世の中ってこんなものですな。あっはっはっは。

プロローグ とある、冬空のどんよりとした日の午後、熊大天研惑星課、同じく彗星課、そして星雲・星団課の3人は、そそくさと惑星課の愛車フロンテに乗り込んで、黒髪を後にした。一体、彼らはどこへいくのだろうか？ そして彼らを待ち受けているものとは？

グルメ紀行

とっぽちからくさやんつき お好み焼き

やってきたのは、あの小林なにがしが住まわれている、熊本市は新町。間口はけっして広くないが、くすんだ瓦の商家がずらり軒を並べている。ちょうど着いた頃は、買物にきた近所のおばさん、おばあちゃん、学校帰りの小、中学生で人通りが多くかった。その人混みの中をフロンテはそろりそろり進みながら、鹿児島本線との踏切まで着たときそれはあっけなくみつかった。

お好み焼き たつみや

いっときの沈黙のあと、感嘆の言葉がもれた。「すげーしぶいー！」「これぞ下町のお好み焼きや！！」踏切のすぐそば、というより特急「ありあけ」などが通ったら竹製の遮断機がしなって店の窓ガラスを打ちやぶってしまうんじゃないかな、と心配したくなるような、そんな近く。そこにめちゃくちゃちいさい、ちょうど天文台のコンピュータールームぐらいの（調理場も含めて）お店。

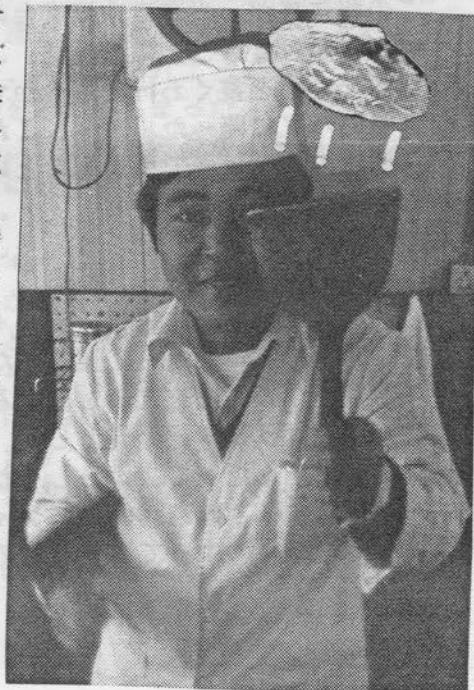
そして実はこのお好み焼き屋こそ、天文台に最近入会されてよく写真を撮りに来られる桑岡秀光さんのお店なのである。天文台で桑岡さんの話を聞いたお好み焼きに目のない3人は、「星屑の取材だ！！」と大義名分をたてて、おしかけたのである。

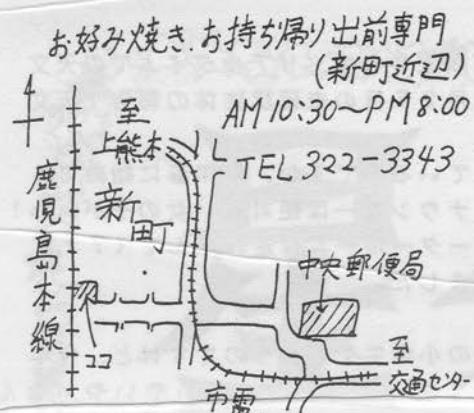
うかがった時は、ちょうど出前に走っておられて、店の中は奥さんと桑岡さんのお父さんだけでしたが、やがて戻ってこられた。

「すいません、おまたせしちゃって、さあ何になさいますか？」差し出すメニューみて「うへー安い、野菜玉で200円ですか？こりや学生街の値段ですヨ！」惑星課（野菜玉が究極のお好み焼きだと信じている）は仰天する。「ヘーチーズをいれるんですか？じゃチーズのいか玉たのもうかな」黒髪のお好み焼き屋に失望している星雲・星団課は興味深々である。「じゃ俺は、豚の昆布」と豚玉こそお好み焼きの原点だと考えている彗星課。

さっそく桑岡さんは焼き始める。「あのね、時々、油の具合いでね、木星そっくりに焼けることがあるのよ」横から奥さんが話しかけられる。「へーえ、あのーハレー彗星焼きとかブラッドフィールド焼きとか出来ませんかね？」彗星課が無理な注文をする。

一方、お好み焼きの方は下の土台？ができるいいよ、具の盛りつけが始まっていた。「へー野菜はキャベツだけなんですね？わあっ具がいっぱい





い！！」「俺達のための特別製何ですか？」「いや、いつもこれぐらいいれてますよ。」「あのー今入れておられるその小さく刻んだ物はもしかして〇〇〇〇ですか？」「そうですよ、これは〇〇〇〇ですよ」「へー〇〇〇〇か、〇〇〇〇がはいっているのは初めてですよ。確かに〇〇〇〇をいれたら××××が☆#%@となつておいしくなるナー。」

うまそうな匂いが漂って、3人の腹を刺激し始めた。「すいません、うちは持ち帰り専門なので、せまくて良かつたら、調理場の方で食べられてもいいんですが・・・」「いいえ、いいえ博物館もここから近いですし、あちらに持って行って食べます。」「それでは、またいらしてください。」3枚のお好み焼きがいってずつしりとしたビニール袋をさげて3人はたつみ屋をあとにした。

エピローグ 博物館に行った3人がそれからどうしたか？宮本先生も永井先生もプラネタリウムの入れ替えで非常に忙しかった。「すいません、今忙しいもので、何か御用ですか？」「いえちょっと近くを通りがかったものですから・・・すぐ帰ります。」部室まで持つて帰っていたら、折角のお好み焼きがさめてしまうので、しかたなく3人は、博物館の隣の三の丸公園のベンチに腰掛けて・・・「うめー！うめー！」と言ってあつというまに平らげてしまいました。「ねえー帰りにもう1回、たつみ屋によって行こうか？」と言ひ出したのは、☆☆課。
おわり（写真、文はY. TAKATA）

★一 おでん会のお知らせ → 訂正 新年会のお知らせ

来年8年も、また恒例の新年会を

1月4日（月）、午後6時から始めます。会費は大人1000円、子供500円（中学生以下）です。

料理は、また例年のごとく、お〇〇です。熊本には正月にしか帰れない、県外にお住まいのかた、天文台も1年間で随分かわりましたヨ。是非、おりください。

まだブラッドフィールド彗星も見えますし、ボレリー彗星も明るくなっていますよ！！

特別 穴埋め記事

天文台この1年間の9大ニュース

87'もいろいろな事がありました。思い付くまま、私がピックアップしてみました。貴方が選んだニュースとどう違いますかな？

① N . T. T. 彗星、水俣の西川 登氏発見。

熊本では勿論、九州では初めての発見となりました。また、この彗星は双子座と流星群の母彗星ではないかという予想がたてられ、11月もしかしたら流星雨が・・・と期待されましたが、どうやら不発に終った模様です。

西川さんは11月に天文台の会員になられました。

② 井無田観測会大成功？！

11月22、23にち20余人が、何年かぶりの観測会を井無田で開きました。もうすぐ出る（予定の）星屑特別号でそのすさまじい模様を紹介します。

③ OAAパソコン通信、KANS天文情報快調！！

3次のページ

○ A Aとの間でのパソコン通信は今年は100回以上やって、リアルタイムでの天文情報の入手、また小林寿郎氏の彗星の観測報告や、8月27日の未確認物体の報告（天文ガイド88' 1月号164頁）に役立ちました。

K A N Sの方は留守番電話を使って天文情報を流しているのですが、今年春に始めて40号ほどでした。「野郎が掛けてくるんだから、アナウンサーは絶対若い女の子がいい！」といって、初めて天文台に来た女人をコンピュータールームに連れ来んで（？）アナウンスさせたりして、どうもその節はお世話になりました。

④ 夏の天候不順！！お客様激減。

天文台の一番の稼ぎ時の夏休み、いつもは子供会の小学生で賑わうのですけど、今年の夏はずっと雨！！おかげで、今年は運営も少なくてゆっくりと・・・いやいやハなんとかく寂しい夏でした。

⑤ 12.5cm双眼鏡お目見え

運営で活躍しています。（星屑6、7月合併号参照）

⑥ 金環日食

熊本からもツアーがでましたね（星屑9月号参照）。

⑦ Good Luck ハレー彗星

最後まで観測を続けられていた小林寿郎さんも、4月でその観測が不可能となつて終りました。次の回帰までとても生きていらないなーと、思う人はうちの天文台がもうすぐ出版する「ハレー記念誌」を買って、久々の御対面をしましょう。

⑧ スバル観測会（星屑3月号参照）

環境庁の呼掛けに天文台でも参加してちゃんと観測報告をだしましたが・・それからいったいどうなったんでしょうか？どうもよく分かりません。

⑨ 星屑が一太郎（ワープロソフトの名前）発行となりました。

今までタイプでだしていたのですが、今年からは天文台のP C - 9 8 V X（愛称Y U K I チャン）を使って打ち出すことを始めました。

⑩ 番外！（どうしても10大ニュースにしたいので）

⑪ 飛んで入ったトイレ

金曜の運営委員の三上真人くんが初めて書いた記事でしたね。（星屑8月号参照）

今月号の表紙

イラストレーターで会員の池永久美子さんに描いていただきました。

編集後記

発送が遅れたバチがあたったのか書くスペースがなくなったよー。

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1987年12月号 通巻 156号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古賀町3番2号 熊本市博物館内

TEL 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当 高田 祐一

